

OMM JAPAN 2015 TSUMAGOIにご参加ありがとうございます。まずは全チームが勇気と慎重さをもって無事にレースを終えていただいたことに感謝いたします。

昨春、婦恋での開催が決まり、夏から秋にかけて季節が変わっていく婦恋の山の中を調査しながらコースを作りました。まず悩んだのがどのエリアを利用するかということです。四阿山系はその多くが国立公園特別地域に指定されており、必ずしも自由に動き回れる環境ではありませんでした。さらに2日目の11月15日は猟の解禁日にもあたり、さらに林業の作業もあるということで、里山エリアの利用も大きく制限されることとなりました。鹿沢温泉など婦恋村内の他の地域を使うことも検討しましたが、会場（HQ）やキャンプ地のファシリティ、浦倉山から破風岳へ続くダイナミックな稜線、毛無峠や小串鉾山跡の荒涼とした風景、野地平やその下の平坦な森などはOMMらしい難しさと楽しさを与えてくれるだろうと判断しこの地を競技エリアに設定しました。

2日目の表彰式に多くのチームが帰還できるよう、2日目のコースの方が軽めになるのは致し方ありません。稜線へ行くのは1日目とし、2日目は猟へ入る人たちとの接触を避けやすいパノラマライン西側の森を使うこととしました。真夏の調査は難儀でした。ほとんどの森が藪に覆われ（レースのときにはほとんどなくなっていました）、さらに壁のような熊笹が立ちほだかります。道1つ探すのも大変苦労しました。

エリアの詳細を探りながらコースも組み上げました。残念ながらストレートショート1日目は稜線に行ってしまうと距離が増えすぎてしまうため野地平やその下の森のみを利用することにしました。難しい判断を迫られたのはストレートロング。当初は毛無峠まで進み、そこから小串鉾山跡を抜けて廃道を進み、不動沢川を超えて上砥草山あたりへ戻る予定でコースを組んでいました。調査の段階では小串鉾山跡から伸びる廃道部分を少し整備すれば危険は除去できると判断していました。しかし秋になり試走の段階で、不動沢川を渡る部分が崖となっているとの報告がありました。おそらく夏の雨で削れてしまったのだろうと思います。レースまで2ヶ月を切った段階でコースの大幅変更が必要となりました。

稜線以外に毛無峠と行き来できるルートはありません。このまま稜線エリアはカットして里山とキャベツ畑だけをぐるぐる回るコースにするしかないだろうと一度は決めかけましたが、しかし山岳エリアに行かないコースをOMMのコースとして提供してよいのだろうかと悩みました。そして最終的には、毛無峠を見せたいという人々の熱意も受け、コースの形としては美しくないけれど稜線ピストンとなる今回のコースに決めました。

2日目は先にも述べた通り、比較的完走しやすいように道路や林道を多用するコースにすることは決めてありました。林業の関係で舗装道を延々と進む区間ができてしまったことは少し残念でしたが、北海道やヨーロッパの雰囲気もある広大なキャベツ畑の広がる丘陵、小さいながらも細かな地形が広がる森の中、きれいに刈られたスキー場など多彩なエリアを楽しんでいただけたのではないかと思います。

各コースのタイム・スコアを見るとトップチームに対してはほぼ想定通りの結果でした。1日目のストレートロングは悪天候の影響もあってか30分ちかくタイムが遅かったようで

す。一方で完走できなかったチームも多く、ほとんどのチーム、特にストレートロング、にとっては厳しいコースだったのも事実でしょう。

厳しいコースになった最大の理由が悪天候であることは明らかです。稜線を使う段階で雪の可能性は考えており、悪天候時は稜線をすべてカットすることにしてありました。そうになると、ストレートロングはストレートショートよりも短いコースになってしまいます。それも自然と戦うOMMらしいコースでよいだろうという気持ちがありました。しかし実際に判断しなければならないときに、他のオーガナイザーにとっては決断しづらいコースだったのかもしれませんが。それを考えればやはりコースデザインの段階でもっと運用しやすいコースにしておかなくてはいけなかったと反省しています。

それに加えて、不動沢川の地図表現があいまいだったことも悔やまれます。我々にとってあそこは行きたくない場所という意識があったので、今回の立入禁止表現が「行けるかもしれない」というプランを誘発するとは想像もできませんでした。結果としてスコアのチームが数チームそこに入ってしまい、場合によってはより危険な状況に陥ってしまう可能性もあったことを考えれば、誰もが確実にリクスを排除できる地図表現にしなければならぬと猛省しています。

しかし一方で、完走率を上げるためのコース設定をする必要はないとも考えています。事実、トップチームは想定されるレベルで走破することができています。言い方を変えれば多くのチームはまだまだ力不足なことは否めません。明らかな立入禁止エリアに立ち入っていくチームも散見しましたし、悪天候の中で明らかに十分ではない装備で出場するチームも見かけました。個人的にはマイペースで楽しめるスコアよりも、好き嫌いでできないストレートにこそOMMの醍醐味はあると思っています。OMM JAPANのストレートを完走することが日本のアウトドアスポーツ界の共通の目標となり、日々の鍛錬研鑽を重ねるモチベーションに繋がればと願ってやみません。そのためには、我々もレベル別に分けたコースの提供などさらなる改善が求められることを付け加えておきます。

コースプランナー

小泉 成行 (Shigeyuki KOIZUMI)